

高松教区
殉教者祭
2015



オペラ

高山右近 至福の王者

剣か愛か

原作：加賀乙彦
台本：石多エドワード
作曲：マヌエル・マランバ

【高松会場】
7月4日(土) 17:00 開演
カトリック桜町教会 聖堂

【松山会場】
7月5日(日) 15:00 開演
聖カタリナ女子高校 白百合館

主催：NPO 法人東京オペラ協会
共催：カトリック高松教区

〈クリシタン大名〉高山右近「福者」に…バチカン審査委了承

(毎日新聞 6月21日(日) 8時31分配信)

【アテネ福島良典】安土桃山時代のクリシタン大名「高山右近」(1552～1615年)が近く、キリスト教カトリックで最高位の「聖人」に次ぐ「福者」に認定される見通しとなった。バチカン(ローマ法王庁)の神学審査委員会が、18日に認定手続きを進めることを了承した。



◇国外追放され殉教

今後、高位聖職者である枢機卿の会議を経て、フランシスコ・ローマ法王が承認する。発表は今年末～来年1月になる見込み。「列福式」は来年中に日本で開催される予定だ。法王は今年3月、日本司教団との会見で列福式に「可能なら行きたい」と述べたという。

今年には高山右近の没後400年にあたり、日本司教団や関係地方自治体などが働きかけを強めてきた。高山右近は12歳の時に洗礼を受け、高槻城主となって織田信長や豊臣秀吉に仕えた。

「バテレン追放令」を出した秀吉に棄教を迫られたが拒否し、徳川家康による国外追放令を受けてフィリピン・マニラに渡り、現地で死亡した。

「福者」としての認定をバチカンに申請するにあたり、日本司教団は当初、高山右近が「奇跡」を起こしたという証明が必要な「証聖者」として申請したが、その不要な「殉教者」に切り替えた。(以下略)

ユスト高山右近の列福を求める祈り

すべての人の救いを望まれる神よ、

ユスト高山右近は、「全世界に行って、福音をのべ伝えなさい」というキリストのことばにこたえ、苦しむ人を支え、困難のうちにある人を助け、あなたへの愛をあかししました。また、世の権力に屈することなく福音に忠実に従う道を選び、すべての地位と名誉を捨て、幾多の困難をすすんで受け入れ、ついには異国へ追放されました。このように、あなたはユスト高山右近をとおして、すべての人に仕える者の姿を示してくださいました。

父である神よ、どうかわたしたちの祈りを聞き入れ、福音を力強くあかしたこの神のしもべを福者の列に加えてください。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

(各自の意向を沈黙のうちに祈る)

父である神よ、現代に生きるわたしたちが、あなたの忠実なしもべユスト高山右近にならって、この世の力や誘惑に惑わされることなく生き、名を知らない人びとに福音をあかして下さるよう、ゆるぎない信仰と勇気で満たしてください。

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

二〇〇三年二月 日本カトリック列聖列福特別委員会認可

ごあいさつ

「高山右近列福」が、夢から現実に向かっております。新聞などでも、来年「右近列福式！」と報じられ始めております。全カトリック信者はもとより、「高山右近」を知る、多くの人々の喜びと励ましになる事でしょう。この実現には、多くの人の思いが繋がって、結実したものと思います。

思い起こせば、「高山右近」の列福運動は、右近が帰天した17世紀当時にすでに始まっています。近年では、終戦後田口芳五郎枢機卿によって、現在の大阪大司教館に「高山右近列福運動本部」が設立され、列福運動が推進されてきました。日本司教団として右近の列福運動が推進されており、2015年の帰天400周年に合わせて列福されることを目指してきました。

日本というこの地の信仰の「種」となった殉教者たちの歴史に目を向け、思いを馳せ、本日のオペラ「高山右近至福の王者 一剣か愛か」を観て頂きたいと思っております。

カトリック高松教区 諏訪榮治郎司教

加賀乙彦 原作 / 石多エドワード 台本 / マヌエル・マランバ 作曲 / NPO 法人東京オペラ協会 公演

オペラ 高山右近 至福の王者 一剣か愛か

指揮・総監督：石多エドワード
ピアノ：竹本 純子

cast	高山右近	金 努	メイド	兵藤 好美
	ロレンソ	蔵田 雅之	民衆	坂田 直子
	惣兵衛	枝川 一也		川口 優子
	秀吉、シルバ	岩永 一也		中牟田峰子
	結城了雪、看守	西田 直人		秦 美智世
	光秀	廣田 修		坂上 光子
	ガラシャ	石多加代子		大島 佳子 (松山公演のみ)
	ジュスタ	谷野 有紀		岸本 良枝 (松山公演のみ)
	ルチア	吉井 美幸		越智 大之
	ピピアナ	有馬 沙里		田村 昌宏
	乞食女	田村多佳子		山口龍一郎
	お米	山口 陽子		松島哲ルカス (松山公演のみ)

作曲家プロフィール

マヌエル・ペレズ・マランバ (ドン・ベニルドゥス)

1936年7月4日 マニラ生まれ
作曲家、ピアニスト、教師、ベネディクト会司祭
父は銀行家で、ピアニストであった母が、マランバの最初の音楽教師となった。ベネディクト修道会に入会し、ドン・ベニルドゥス・マリアという修道名を付けた。
1953年 サント・トマス大学の音楽部の学位
1956年 バルチモアのバイボディー音楽学校でピアノマスターズクラスの修士号
1958年 作曲の学位、イェール大学で音楽芸術学の修士号
1974年 アメリカ、ニューメキシコ州のサンタフェにある聖ヨハネ大学の在留音楽家として活躍
宗教音楽の作曲家としては、フィリピン唯一の聖人に捧げられた「聖ロレンソ・ルイス賛歌」によりもっともよく知られている。1981年にパレー「目覚め」、1982年にオーケストラ音楽としてピアノ協奏曲、1983年に「変容1」、そして1987年に「変容2」を室内楽として作曲。
1990年3月 ベネディクト会マライバライ・プキグノの修道院に派遣され、そこでローマ法王パウロ6世典礼研究所の助監督を務めている。フィリピンオルガニスト協会の会長、フィリピン国立音楽協会のメンバー、ピアノ教師組合の評議員、フィリピン作曲家連盟のメンバーでもある。

台本作者プロフィール

石多エドワード

1947(昭22)年9月21日、大阪市に生まれる。
父はフィリピンで出生した日本人、母はスペイン系フィリピン人。
1965年 大阪府立高津高等学校卒業。在学中、体操部部长、自治会会長。
ベートーベンの後期弦楽四重奏に魅せられ、作曲家を目指す。
1966年 武蔵野音楽大学声楽科入学
1970年 卒業後オペラ界で活動を始める
1976年 「東京オペラ協会」の前進、「グループ潮」第1回公演
1979年～1999年 帝京大学で教鞭
東京オペラ協会代表・芸術監督として創作活動のかたわら、内外各地で数多くの公演・リサイタルをこなす一方、欧州の古典作品を現代の視点から再構築した公演も続けている。例えば、ビゼーの「カルメン」を東京山谷の夢物語に。またダンスオペラに。モーツァルトの「魔笛」をミュージカル「魔法の笛と鈴」に。「フィガロの結婚」を歌舞伎風オペラに再構築した。

小豆島と高山右近



小豆島にキリスト教が渡来したのは、天正14(1586)年の事です。天正13(1585)年、豊臣秀吉は、根来・雑賀攻めの功により、小西行長に小豆島の管理権を与えます。行長は、和泉堺の薬種商・小西隆佐の養子で、備前宇喜多直家に仕えた後、秀吉に仕えていました。翌年、キリシタンだった行長は大阪のセミナリオ(神学校)にいたグレゴリオ・デ・セスペデスを島に呼び寄せて布教を行わせます。セスペデスは1ヶ月余りで1400人に洗礼を授け、島民たちは長さ約15メートル以上もある美しい一基の十字架を建てたといわれています。

海を見下ろすオリーブ園には、白亜の巨大な十字架がそびえる。十字架は昭和62年、小豆島のキリスト教伝来400年を記念して島の有志により建立された。小西行長ら一行が当時、島に教会を建設しようと高さ15メートルの大十字架を建てたとされる故事

をイメージして造られた。<小豆島南側の内海町西村>

セスペデスが布教した場所は草加部(くさかべ)地区と推測されています。

ところが、豊臣秀吉は、天正15(1587)年、キリスト教禁止策に転じ、日本に在留する宣教師らに国外へ退去するよう命じます。これに対して、キリシタン大名である「高山右近」は、信仰を捨てることを公然と拒否しました。また、オルガンチノ神父らは日本国内に留まります。流浪の身となった右近とオルガンチノ神父を庇護したのが、当時、小豆島を支配していた小西行長でした。高山右近は、博多沖の無人島から淡路島を経て室津でオルガンチノ神父と合流し、小豆島に入ります。<オルガンチノ神父が潜伏していたと言われる島中央部の池田町中山地区の千枚田>



元小豆島新聞社・藤井豊氏は、右近潜伏地を中山周辺、オルガンチノ神父潜伏地を土庄町肥土山地区(写真奥)と推定する。

彼らが小豆島のどこで潜伏していたかは定かではありませんが、オルガンチノ神父は四方を山に囲まれた一軒家、右近はそこからさらに数キロ奥に入った場所で隠れていたといわれており、両人は交流を続けていたようです。また、オルガンチノ神父が小豆島に隠れていることを知った京都、大坂、高槻、堺などのキリシタンが、秘かに小豆島に手紙を寄せてきたり、訪れてきたといわれています。



高山右近は、福音を日本に根付かせたいとの大きな夢に生涯をかけました。400年の時を越え、右近の熱い思いは、今を生きる教会の行く手を示し、勇気を与え続けています。右近の思いを現代に生かすことは、司教団始め日本の教会全体の悲願です。一人でも多くの方が、この運動に加わり、お力添えをいただけるように願ってやみません。

列聖列福特別委員会 委員長 大塚喜直 京都司教